

(10)九州



九州地域では、景気は回復の動きに一服感がみられる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいである。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きも強い。

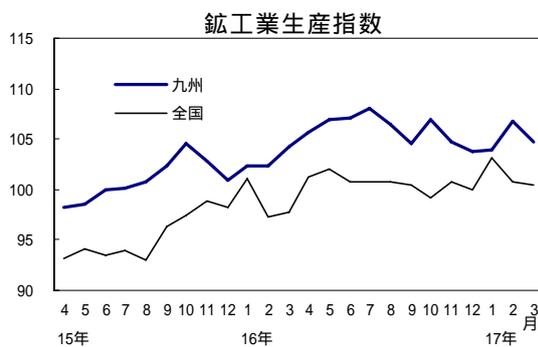
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 17 年 2 月）	今回（平成 17 年 5 月）	
景況判断	緩やかに回復している	回復の動きに一服感がみられる	
鉱工業生産	緩やかに増加	おおむね横ばい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

電子部品・デバイスは、車載向けやゲーム機向けの集積回路は好調だが、携帯電話向けやデジタル家電向けが生産調整を続けており、全体としては減少している。輸送機械は、10～12月期、自動車で鋼材不足による生産休止があったことの影響から、大きく増加した。一般機械は、中国向けの発電機関連、半導体製造装置、船舶向けボイラー等の大型案件の受注が減少したことにより全体でも減少した。食料品・たばこは、工場閉鎖の影響で、たばこが減少したものの、焼酎やビール・発泡酒が引き続き好調なことから全体では増加した。化学は、中国を中心とするアジア向けの需要が一服したことから、減少した。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成17年3月の九州は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10～12 月期	1～3 月期	1～3 月期	1～3 月期
電子部品・デバイス	14.9	2.0	2.4	2.1	11.9
輸送機械	11.7	6.3	10.0	7.7	21.2
一般機械	11.0	0.7	9.6	9.7	0.0
食料品・たばこ	10.8	2.9	6.7	5.3	1.5
化学	8.5	0.6	3.4	2.9	1.3
鉱工業	100.0	1.1	0.0	0.6	3.9

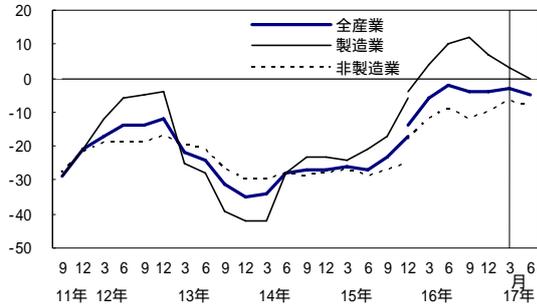
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1～3月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。

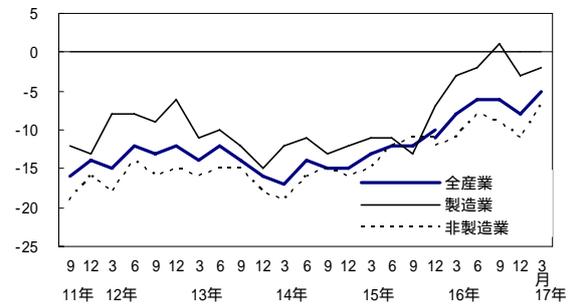
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



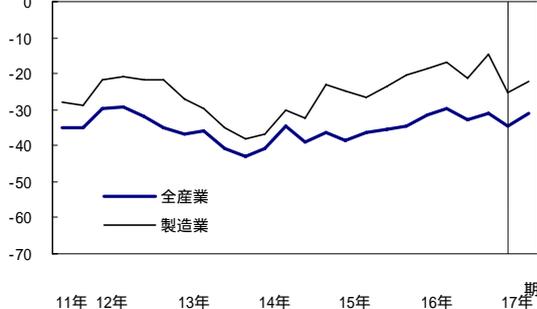
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年6月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「2、3か月前と比べてもあまり大きな変化はない。急に暖かくなった関係もあるが、入客が多く飲食関係は割と客が増えている(経営コンサルタント)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 16年度の設備投資は前年度を上回る見込みとなっている。

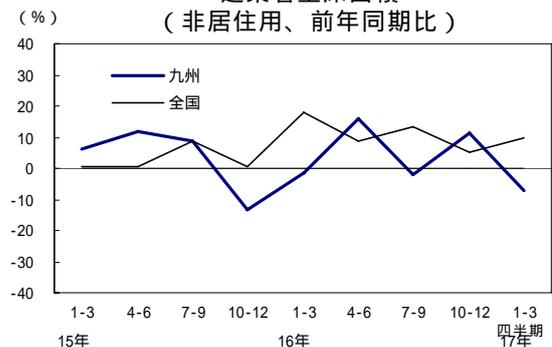
企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)

	16年度実績見込み	17年度計画
全産業	8.0(1.5)	2.6
製造業	41.8(0.6)	8.0
非製造業	7.1(2.8)	1.1

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

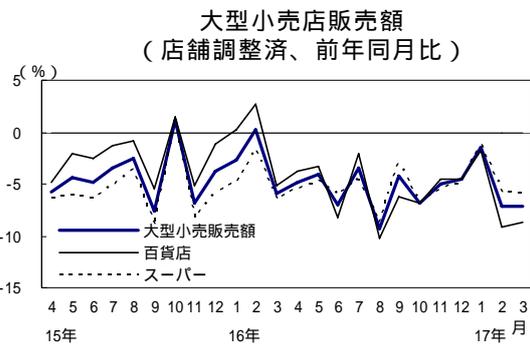
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、初売りとクリアランスセール同時開催や年初からの冷え込みから、衣料品が好調だったが、全体では前年の新装開店効果の反動から前年を下回った。2月は、天候不順や前年のうるう年の影響から、衣料品、飲食料品、その他すべてにおいて前年を下回った。3月は、改装や季節催事等から飲食料品に動きがあったものの、20日に発生した福岡県西方沖地震による臨時休業の影響などから前年を下回った。なお、九州百貨店協会によると、九州地区の4月の売上高は、前年同月比で1.5%の減となっている。

スーパーは、天候不順や前年のうるう年の影響で衣料品が大きく減少したほか、福岡県西方沖地震の影響等もあり、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「薄型テレビやDVDレコーダー等の単価下落が続き、販売量が伸びても売上はさほど増加しない。また、3・4月の移動マーケットが年々縮小している(家電量販店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

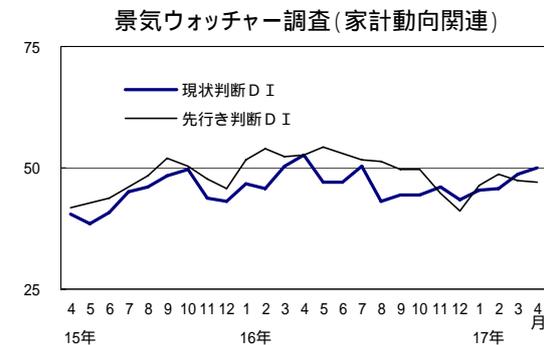
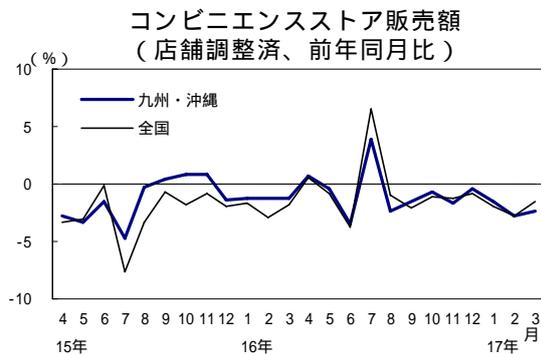


	(前年同期比、%)			
	16年4-6月	7-9月	10-12月	17年1-3月
大型小売店	5.3	5.6	5.4	5.1
百貨店	5.0	5.8	5.2	6.4
スーパー	5.4	5.6	5.6	4.1
コンビニ	1.1	0.0	0.9	2.2
景気ウォッチャー	48.9	45.8	44.6	46.6

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

九州・沖縄地区。

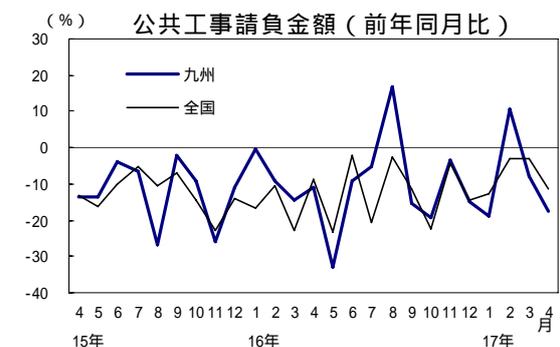
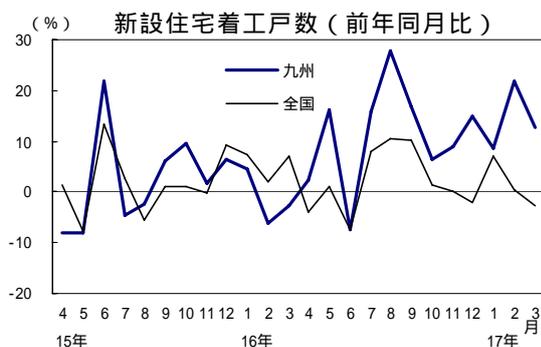
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

貸家、分譲を中心に前年を上回ったことから、全体でも大幅に増加している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。

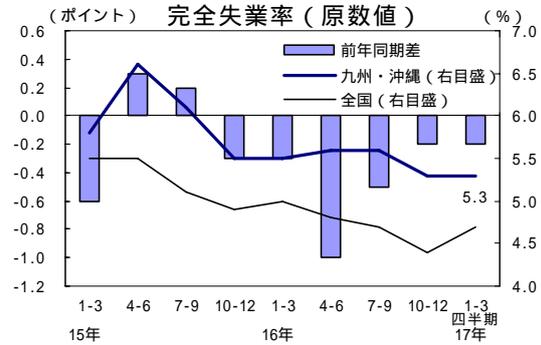
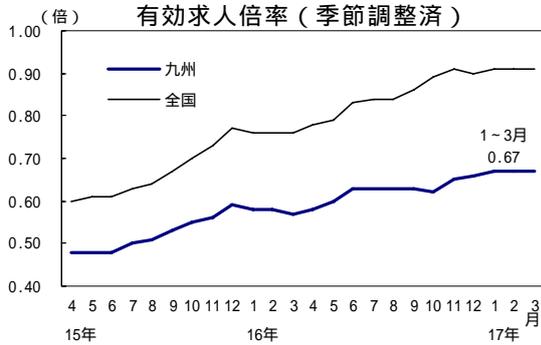


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きも強い。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]

「人材派遣需要のピークが一段落した。求人数は前年並みで、大きな変動はみられない。新年度の派遣料金単価の交渉結果では、好況業種の一部に限ってのみ2～3%の料金アップが認められた程度である（民間職業紹介機関）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は下落している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	16年4-6月	7-9月	10-12月	17年1-3	17年4月
倒産件数	287	283	299	275	91
(前年比)	23.5	22.0	10.7	8.3	7.1
負債総額	1,071	916	1,049	872	471
(前年比)	17.6	49.7	47.1	10.8	29.5



景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・福岡県西方沖地震発生以来、ビジネス客以外の利用が極端に減っている（都市型ホテル）

<先行き>

・単価はあまり変わらないが、買上点数がわずかではあるが伸び始めている。財布のひもが緩んできたのかもしれない（スーパー）

景気ウォッチャー調査（合計）

